

## 温泉巡り

豊澤 幸平

私は今まであまり温泉に興味はなかったが、数年前に温泉通の友人から誘われ行き始めた。今ではすっかりはまっている。彼ら四人と高湯温泉（福島県）、土湯温泉（福島県）、万座温泉（群馬県）、この二月は法師温泉（群馬県）を訪れた。万座は秘湯ということにはならないが、他の三箇所は秘湯であろう。

温泉、とりわけ秘湯は、都会から少々離れており、新幹線や公共交通機関の最寄りの駅からバスなどでたどり着く。風情のある日本家屋の一軒宿。露天風呂。源泉かけ流し湯。四季折々の新緑、紅葉、雪景色。風や水の音。これらを湯に浸かりながら楽しめる。我々はおっぱら冬の季節に行っているので、風呂に浸かりながらの雪景色は素晴らしい。時間の流れがゆったりしているので、非日常の空間を味わえる。心や体も癒してくれる。

温泉には病気の治療にも効果があるといわれているが、私はまだそれを実感したことはない。泉質は、塩化物泉、炭酸水素泉、硫酸塩水、硫黄泉、含鉄泉などと数多くあり、腸内環境の改善、貧血、疲労回復、精神疾患などに効果があるらしい。温泉は古来より日本人の生活に根付いている。日本書記には天皇が有馬温泉（兵庫県）に行幸したとの記録もあり、日本人の社会的習慣である。また今年、行った法師温泉ではかなりの数の外国人をみかけた。SNSなどを通じ温泉、秘湯に興味を持つディープな外国人が増加している。

ところでこれらの「温泉文化」をユネスコ無形遺産登録にする取り組みが始まっている。昨年十一月に国の文化審議会で国内登録が決まり、二〇三〇年にも登録可否が審査される。登録を目指す背景にあるのが、温泉が失われつつある現状だ。全国の温泉地数は二〇一〇年がピークで三一八五か所、二〇二三年は二八五七箇所に減少。人手不足、後継者難、高齢化、コロナ禍が原因と。法師温泉でもその対策で日本語が堪能な外国人のスタッフを数名見かけた。

我々が心おきなく楽しめる「ONSEN」文化が長く続いて欲しい。

（二〇二六年四月）